

第 38 回 ぶら〜い悠遊クラブ

秋の章・瀬戸内国際芸術祭 高見島 周遊レポート

★開催日時: 2025 年 10 月 29 日(水)

★行 先: 高見島(香川県多度津町)

★参加者: 山田 豊・八木・石川・井上夫妻・樋口 6 名 (敬称略)

2010 年 第 1 回瀬戸内国際芸術祭が開催され、回を追うごとに好評を博し国内外ともに知名度、人気が向上し、以降“トリエンナーレ”として 3 年に一度の開催が定着しています。

ぶら〜い悠遊クラブの瀬戸芸鑑賞活動としては 2013 年本島^{ほんじま}(丸亀市)、2023 年「健康ウォーク」とのコラボとして小豆島を訪ねています。

今回の鑑賞会場は塩飽諸島に属し多度津町北西 7.5km 沖合に位置し周囲 6.4km の高見島です。

昭和初期までは除虫菊の栽培が盛んで 5 月になると真っ白な花が島一面を覆い 1000 人を超える住民がいましたが、今は 20 数名の過疎の島となっています。

そのため、島内にはコンビニも自販機もないため、今回の参加者には、昼弁当、飲み物等の持参を事前に呼びかけました。

高見島港到着後、案内所で手続きを済ませ、瀬戸芸鑑賞の周遊に出発しましたがいきなり石垣と急坂が迫ってきます。

島の特徴は、急斜面に家々が階段状に立ち並び、集落では縫うように階段の多い小道が伸びるという独特の町並みと石垣が残っています。

その景観は独特で、“寅さん”や“金田一耕助シリーズ”のロケ地にもなりました。

さて、本題の瀬戸芸作品は「高見島アートトレイル」と銘打ち、石垣の続く小道に沿って作家 8 人の瀬戸芸ならではの個性豊かなアートが並び、快晴に恵まれ真っ青の空と綺麗な海に囲まれた景観とあいまって、ゆ〜ったり、ま〜ったりとした開放感の中、存分に満喫できました。

また、随所に隠されているように小さなオブジェが配置され、それを見つけるとはしゃいでまるでスタンプラリーのような楽しみ方もできました。帰路は予定していた定期便より 1 便早く臨時船にうまく乗船できたため、宇多津で予定していた平日限定の 3 時間飲み放題・しゃぶしゃぶ食べ放題の打上げ会も 3 時間フルにこなし“芸術”と“同好会運営”等々の話題に花が咲き高齢者健在の存在感を示し 19:20 解散しました。

(樋口 記)